

学校再編の進め方に関するアンケート調査の結果等

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

令和3年2月に策定した日立市立学校再編計画について、児童生徒数の推移などを踏まえて、3年程度を目安に再編の進捗を検証して計画の見直しを行うこととしており、計画の改定検討方針（案）について、保護者の皆様の意見等を把握するため。

(2) 実施方法

河原子小学校・河原子中学校の保護者が登録しているEメール連絡網（マチコミメール）で依頼し、回答はオンラインで実施。（一世帯一回答）

(3) 対象数

河原子小 133世帯

河原子中 100世帯

小中重複

アンケート対象

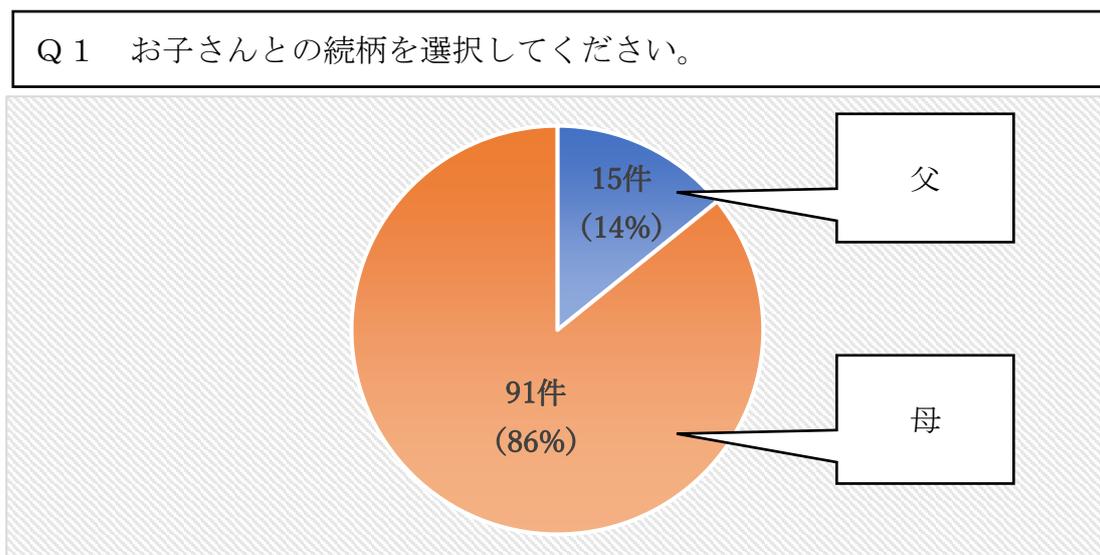
計 233世帯 — 43世帯 = **190世帯**

(4) 実施期間 令和7年12月10日（水）～12月19日（金）

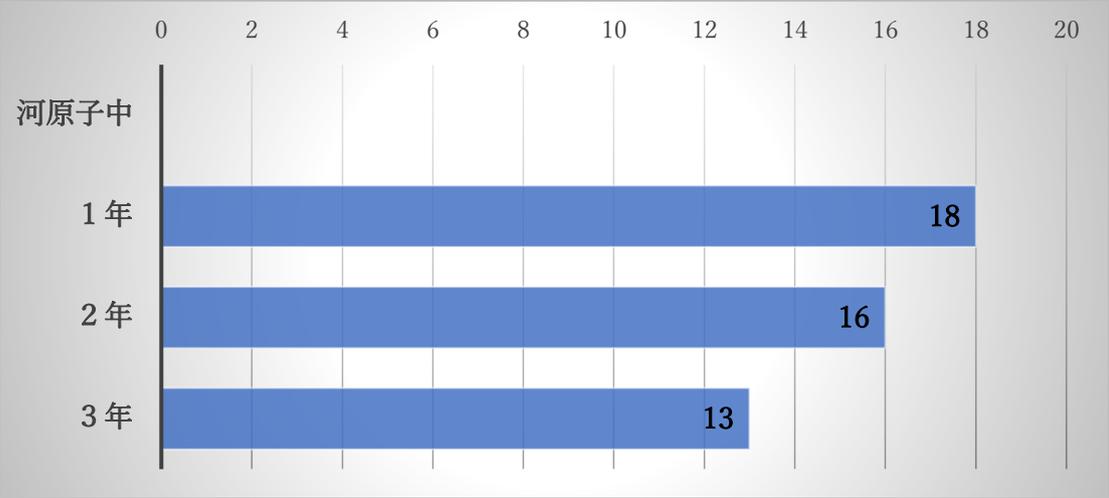
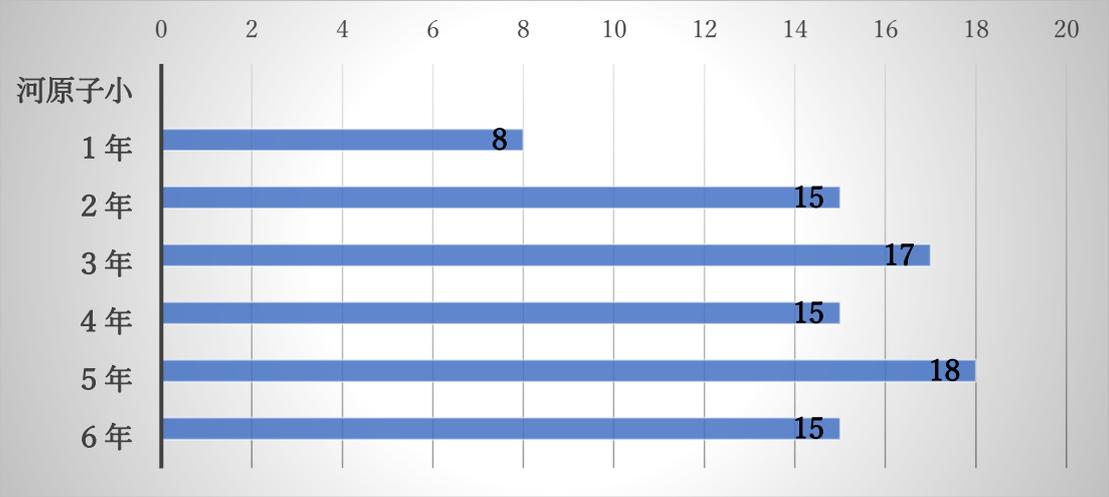
2 結果

(1) 回答率56%（回答件数106件／対象数190世帯）

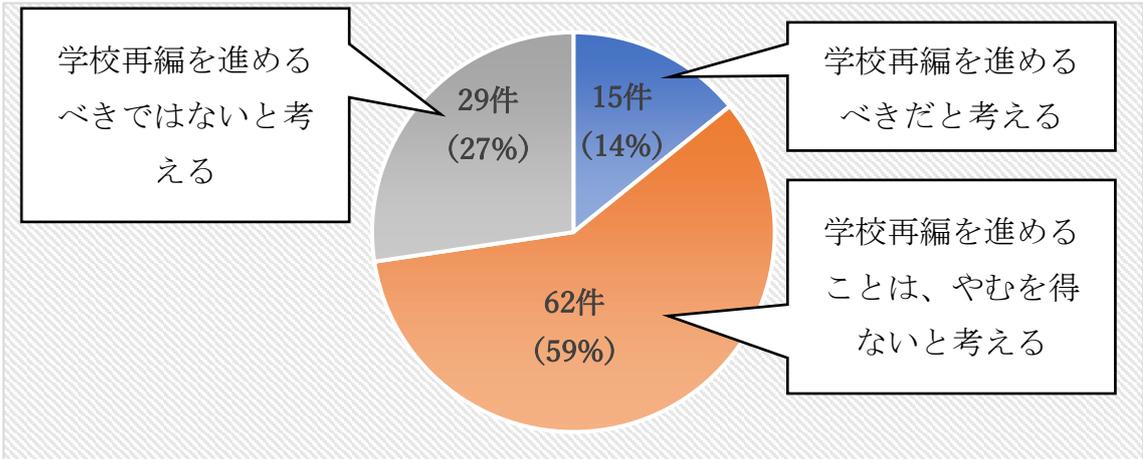
(2) 質問ごとの回答件数等



Q 2 お子さんが在籍している学校、学年を選択してください。(複数回答・未回答あり)



Q 3 今回お示ししている日立市立学校再編計画の改定検討方針(案)において、中学校の適正規模に向けて、河原子中学校と大久保中学校の統合を検討しています。これから学校再編を進めることについて、現在のお考えに最も近いものを一つお選びください。



Q4 その他、ご意見等がありましたらご記入ください。(自由記述)

※ ご意見等を分類ごとに分けて、これまで住民説明会やマチコミメール等で回答した内容を基に、改めて回答いたします。

①「**学校再編を進めるべきだ**と考える」と回答された方の主なご意見等

<教育環境と生徒の成長への影響>

【ご意見等】

- ・河原子小学校からほぼ単学級で人間関係が固定されてしまい、閉鎖的な環境になりがちで子供の成長にはマイナスが多いと思う。

【回答】

- ・学校の規模が小さくなると、児童生徒の人間関係の広がりや学習形態の多様さなどが制限され、本来それらを通して得られる社会性や、人格形成に必要な成長の機会を狭めてしまう懸念があります。また、一定の学校規模を確保することで教員の配置が充実し、多様な指導体制などが可能となり、より良い教育環境を整えることが可能になります。

特に中学校においては、卒業後これまでとは大きく異なる環境の下で新たな人間関係を築いていくことになるため、より多くの生徒と関わるのが重要であり、各学年の学級数が小学校よりも多い方が望ましいと考えております。

<通学の安全対策等>

【ご意見等】

- ・通学経路の安全を最優先に考慮してほしい。
- ・バスによる通学支援を検討してほしい。

【回答】

- ・通学路の安全対策につきましては、生徒が安心して通学できるよう、統合準備委員会に設置する通学部会において、保護者の皆様のご意見を伺いながら、通学距離や通学路の安全確保の観点から協議を行います。
- ・徒歩や自転車による通学が困難である場合は、保護者の負担を軽減できるよう、路線バスなどの公共交通機関による通学方法について協議を行います。
- ・本市では、関係機関及び各学校等と連携して通学路の安全対策に

取り組んでおり、「日立市通学路安全推進会議」（※）を設置して、児童生徒が安全に通学できるよう通学路の点検や安全対策を推進しています。

※ 国土交通省常陸河川国道事務所、茨城県高萩工事事務所、日立警察署、市コミュニティ協働課、市道路建設課、市道路管理課、市教育委員会学務課、各学校（PTAや交通安全の会等）

<学校再編に伴う取組事例>

【坂本東小学校（R6.4月に東小沢小学校と坂本小学校が統合）】

- ・統合に伴い通学距離が延伸する旧東小沢小学区の児童が、路線バスを使用して統合校へ通学する場合の通学費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図っています。

<既存の学校施設・設備>

【ご意見等】

- ・プレハブ校舎と設備が整っている学校との差が大きく不公平である。一刻も早い改善が必要。

【回答】

- ・統合までの期間は、プレハブでの運用を考えておりますが、できる限り子どもたちの教育環境を整えることができるよう、施設所管課と環境整備の対策を検討してまいります。

②「学校再編を進めることはやむを得ないと考える」と回答された方の主なご意見等

<教育環境と生徒の成長への影響>

【ご意見等】

- ・現行の少人数（単学級）クラスが、人間関係の固定化、閉鎖的な環境、不登校、部活動の制限など、生徒の成長に影響を及ぼしている現状を踏まえ、学校再編の必要性を感じている。
- ・中学3年生など多感な時期での環境変化や転校が、受験勉強や心理面に与える悪影響を懸念し、生徒の心情や人間関係への配慮が重要である。

【回答】

- ・今回の計画改定（案）が決定した場合は、統合までの移行期間において、河原子中学校と大久保中学校の合同行事の実施や合同学

習の機会を設定してまいります。

- ・受験を控えた生徒への配慮として、統合前からの学習や進路指導が途切れることのないよう、担任や進路指導担当を中心に一貫したサポート体制を整備してまいります。
- ・統合に伴う生徒の不安軽減のため、スクールカウンセラーや教育相談員による相談の機会を設けるとともに、教職員と密に連携しながら、新たな学校生活へ円滑に移行できるよう努めてまいります。

<学校再編に伴う取組事例>

【松風中学校（R7.4月に坂本中学校と久慈中学校が統合）】

- ・坂本中・久慈中の教員が話し合い、各教科教員等が集まって、授業の進め方や学習スタイルのすり合わせを行いながら、統合準備を進めました。
- ・学年担当に坂本中から異動した教員を複数名配置し、子どもたちが統合校での学校生活にスムーズに慣れるよう配慮をしました。

<計画見直しのプロセス>

【ご意見等】

- ・計画の迅速な決定、明確な時期・内容のアナウンス、そして保護者や地域住民、子どもたちの意見を適切に傾聴し反映するプロセスを求める。

【回答】

- ・統合の時期は、準備期間を十分に確保した上で統合準備委員会において協議し、保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら決定します。
- ・今年度内に計画が改定されると仮定した場合に、これまでの中学校の統合実績（統合準備委員会の設置から開校まで3年程度）を踏まえ、統合校の開校は、令和11年度以降になると考えています。
- ・今回の計画を改定する検討方針（案）につきましては、河原子学区住民説明会やマチコミメールを活用し、河原子小学校及び河原子中学校の保護者の皆様からご意見等を伺いながら検討を進めているところです。

【ご意見等】

- ・学校再編の必要性は理解するものの、現行計画の急な変更には不信感と戸惑いを抱いている。

【回答】

- ・今回お示しした計画を改定する検討方針（案）は、子どもたちの教育環境の充実と安全確保を優先しつつ、保護者や地域の皆様の具体的なご意見を踏まえて、学識経験者・保護者・地域関係者・学校教育関係者等の代表で組織する学校再編計画改定委員会において、協議を行った上で改定します。
- ・学校再編計画は、当初決定した内容を必ず進めていくというものではなく、定期的に見直しを行いながら、子どもたちの学習環境や主要教科に複数の教員が配置できるような学校規模の観点から検討を進めてまいります。

<通学の安全対策等>

【ご意見等】

- ・通学距離の大幅な延長が、生徒の負担や事故・事件のリスク、命の危険につながる懸念がある。
- ・交通量の多い国道の横断や未整備な通学路での安全確保が困難であると感じる。
- ・酷暑や冬期の暗い時間帯といった気象条件下の安全性を懸念している。
- ・バスによる通学支援、自動車送迎の許可、安全な通学路の確保など、具体的かつ多様な通学手段と支援策の提供を要望する。

【回答】

- ・①<通学の安全対策等（P.4）>の【回答】に記載のとおりです。

<地域コミュニティへの影響>

【ご意見等】

- ・統合により学校が遠くなることで、特に河原子地域から子育て世代の流出や過疎化が加速することを懸念している。

【回答】

- ・地域の皆様が大切に育てこられた世代間交流の輪が、今後も維持・発展していくことは、地域の活性化にとって不可欠であると捉えています。
- ・統合後、子どもたちが引き続き地域の行事などを通じて多世代と

交流できるような機会を確保できるように、統合準備委員会等において検討してまいります。

③「学校再編を進めるべきではないと考える」と回答された方の主なご意見等

<教育環境と生徒の成長への影響>

【ご意見等】

- ・統合時期における生徒の心のケアは重要であり、知り合いがいない学校との統合による心理的負担への配慮を求める。
- ・中学3年生など多感な時期での環境変化や転校が、精神的な負担となり、受験勉強などにも影響を及ぼすことを懸念している。

【回答】

- ・②<教育環境と生徒の成長への影響 (P.5)>の【回答】に記載のとおりです。

<通学の安全対策等>

【ご意見等】

- ・通学距離の大幅な延長に伴う生徒の負担、事故・事件のリスク、命の危険性を懸念している。
- ・交通量の多い道路や未整備な歩道での自転車・徒歩通学の危険性、酷暑や冬の暗い時間帯での通学による熱中症や安全面への不安がある。
- ・バス等の具体的な交通手段の提示、運用方法、費用補助の明確化を求める。それがなければ統合に賛同できない。
- ・長時間の通学が、生徒の余暇や学習に影響を及ぼすことを懸念している。

【回答】

- ・①<通学の安全対策等 (P.4)>の【回答】に記載のとおりです。

<既存の学校施設・設備>

【ご意見等】

- ・子どもファーストならば、統合よりも現在の学校設備改善を優先すべきである。
- ・老朽化したプレハブ校舎が生徒や教員の負担となっている。
- ・学校再編により設備改善が滞るのは本末転倒であり、予算がないという市の説明に不信感がある。
- ・新校舎の建設が困難であるのならば、プレハブの建て直しや小学

校との共用、リフォームといった代替案を提示する。

【回答】

- ・統合までの期間は、プレハブでの運用を考えておりますが、できる限り子どもたちの教育環境を整えることができるよう、施設所管課と環境整備の対策を検討してまいります。
- ・河原子小学校の空き教室の活用等の代替案については、施設の構造上の問題や必要な改修費用などを踏まえますと、中学校として必要な専用教室（理科室、技術室等）の確保が困難である点や、改修費用が大きくなるため、課題を整理した上で検討しなければならないと考えております。

<計画見直しのプロセス>

【ご意見等】

- ・当初案から急に変更された計画に不信感がある。
- ・当初案の方が合理的であり、元の計画に戻すことを求める。
- ・アンケートの設問が誘導していると感じる。
- ・小学校は含まれず中学校のみを統合対象とすることや、河原子が計画に振り回されていると感じ、不公平さを感じる。
- ・不確定な状況での入学や、統合時期の計画性不足に対し、迅速な決定と明確な時期の提示を求める。

【回答】

- ・②<計画見直しのプロセス（P.5）>の【回答】に記載のとおりです。

【ご意見等】

- ・泉丘中や多賀中との統合など、他の選択肢も検討し、小中一貫校の設置を提案する。

【回答】

- ・河原子学区から中学校への進学に関して、小中連携教育の観点から河原子小学校の学区は分割せず、全員が大久保中学校に進学できるよう計画の見直し（案）をご提示したところです。
- ・ただし、通学の安全性確保などの合理的な理由がある場合には、大久保中学校から泉丘中学校へ指定校を変更する柔軟な運用についても考えております。
- ・大久保中学校と多賀中学校との統合については、後期計画で検討していくこととなっております。今回、前期計画の見直しを行っている中で、河原子中学校と大久保中学校が統合することとなった

場合は、その点を踏まえ、大久保中学校と多賀中学校との統合について、後期計画で改めて見直す必要があると考えています。

<地域コミュニティへの影響>

【ご意見等】

- ・ 計画変更により、河原子学区の過疎化が加速することを懸念している。
- ・ 特定のコミュニティの意見が優先され、河原子地域の意見が軽視されていることが不満であり、地域間の公平性を求める。
- ・ 現在の統合案が地域文化の衰退につながることを懸念している。

【回答】

- ・ ②<地域コミュニティへの影響 (P.7) >の【回答】に記載のとおりです。

以 上